

# 第19回 魚沼市「ありがとう作文コンクール」 優秀賞作文集

魚沼市では、「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の一環として、そして、人への感謝の気持ちを感じとれる子どもに育ててほしいという願いのもと、ありがとう作文コンクールを毎年実施しています。

今年度の「第19回ありがとう作文コンクール」には、市内の小中学生から858作品の応募がありました。その中から優秀賞に選ばれた4作品を紹介します。

## ◆ 優 秀 賞 ◆

がっこうはたのしいよ	広神東小学校	1年	たきざわ 瀧澤	ひなた 暖太
おかあさんのしおむすび	広神東小学校	2年	ばば 馬場	ゆいと 優弦
きずな学年と 尾瀬自然学習	広神東小学校	5年	しげの 重野	ほまれ 誉礼
何でも出来る最高の友達	広神東小学校	6年	こぬま 小沼	みお 未央



がっこうはたのしいよ



広神東小学校 一年

たきざわ  
瀧澤 暖太  
ひなた

ぼくが、ありがとうといいたひとは、とう  
こうはんのはんちょうと、おじいちゃんとお  
かあさんです。ぼくは、しょうがっこうには  
いったばかりのときは、らんどせるをせおう  
と、なみだがとまらなくなった。

おじいちゃんが「よし、いこう。」とドア  
をあけると、はんちょうが、いえのまえで  
まっていてくれました。ぼくはますますでなみ  
だをふいたけど、なかなかうごけなかった。  
おかあさんが、「どうする？さきにいつて  
もらう？。」というからぼくは、ひとりでい  
くのはいやだとおもい、ゆうきをだしてくつ  
をはいてみんなのところへいきました。ある  
いていると、だんだんつかれておくれしてしま  
いました。そうしたら、はんちょうさんが  
ぼくのををつないでくれたからまたげんきが  
できました。

がっこうにつくとおじいちゃんが、「じゃ  
あな。」とかえりました。くつをぬいでいた  
ら、はんちょうさんが、「ひなたいくぞ」と  
いつてきょうしつまでおくとてくれました。



ともだちのかおをみたらあんしんしました。  
まいにちなみだがでたけど、いまではでなく  
なりました。いえからひとりでみんなのここ  
ろまでなみだなしでいけるようになりました。  
がっこうにいくことが、たのしくなりました。  
た。かえりみちがとくにたのしいです。ぼく  
をみまもってくれた、はんちょうさん、おじ  
いちゃんおかあさんにありがとうといいた  
です。

がんばってがっこうにいつてけっせきはな  
かったです。すぐがんばったので、がっこ  
うがたのしくなりました。もうがっこうはこ  
わくなくなつたよ。  
こんどはぼくが、あたらしい一ねんせいを  
みまもりたいです。



おかあさんのしおむすび

広神東小学校 二年 馬場<sup>ばば</sup> 優弦<sup>ゆいと</sup>



おかあさんは、まい日おいしいごはんを作ってくれます。その中でもおかあさんが作るしおむすびは、一とうしようです。

おかあさんは、おこつたり、やさしかったり色んなかおをします。おかあさんにとてもしかられたことがあります。

学校で一年生の子に、友だちとふざけていやなことをしてしまいました。家にかえると、そのことをおかあさんにいっぱいしかられました。ぼくはなんでそんなにおこるのかと思いました。とてもこわくてなみだが出ました。おかあさんのかおを見ると、おかあさんの目にもなみだがたまっていました。

そして、おかあさんは、「自分がされていやなことは友だちにしてはいけないよ。」と言いました。それは友だちの心にきずがつかからだそうです。心のきずは一どできるとなかなかおらないと教えてくれました。



「友だちの心をきずつけると、ゆいと<sup>ゆいと</sup>の心にもきずがつくんだよ。」と、おかあさんはかなしそうに言いました。人にいやなことをしてしまうと、みんながいやな気もちやかなしいきもちになるんだなと思えました。だからおかあさんとみんながかなしくなるようなこととはしないと、ゆびきりげんまんしました。そのあと夕ごはんになっても、ぼくは気もちがモヤモヤしていてたべたくありませんでした。

おかあさんはそんなぼくに、大きなしおむすびを作ってくれました。しおむすびはとてもおいしくて、モヤモヤした気もちがけずれていききました。だからおかあさんのしおむすびが大すきです。

おかあさんはおこるけど、いてくれるとまじ日<sup>じ</sup>がたのしくてうれしいです。





広神東小学校 五年 重野しげの 誉礼ほまれ

私の学年の名前は「きずな」学年と言います。小学校に入学した時に、お母さんたちが六年生になった時にカッコ良い学年であって欲しいとの願いで、名付けてくれました。

三年生の時、国語の時間に辞書の学習をしました。私は、辞書で「きずな」を調べました。意味は「人と人との切ることのできない結びつき」とありました。むずかしい意味で、その時は、何のことだろうと思っていました。私たち「きずな」学年は、七月十二・十三日に尾瀬自然学習へ一泊二日で出かけました。私は、活動グループの班長になりました。係分担を決める時、「何でも良いよ」と言ったら班長になってしまいました。



みんなをまとめることや自分から何か発信するようなこともしたことが無かったので、少し嫌でした。それでもグループのみんなと尾瀬の事前学習でたくさん調べているうちに、そんな気持ちも忘れて、うきうきワクワクしていました。

自然学習当日、前日までとてもお天気が良かったのに、私たちの日ついでに合わせたように天気予報が良くありませんでした。

そして、天気予報通り、尾瀬の木道を歩く頃、大雨になってしまいました。宿泊先まで二時間くらいの木道を、大雨の中みんなで歩きました。休憩を取りながら向かいましたが、雨の中はとても疲れしました。だけど、班長なので、みんなに「もう少しで着くから、がんばろう」と、声をかけ、はげましあって宿泊先に到着しました。



山小屋の人はとても親切で、尾瀬の自然がきれいに映っている写真の紹介や食事のしたくや手作りプラネタリウムで楽しませてくれました。みんなで入ったお風呂も、四段ベッドで寝たことも、とても楽しかったです。

二日目は、晴天気でした。朝からグループごとで尾瀬沼を散さくした後、全員で尾瀬ヶ原を周りました。雨が上がった後の晴天気だったので、尾瀬の空は、すっきりと青くて植物はきらきらと輝いて、とても気持ち良くて美しかったです。

尾瀬の植物は、全体に小さい気がしましたが、とてもたくましいようにも見えました。事前学習した植物を見つけた時はうれしくてみんなで声を出して喜びました。



尾瀬から下山する時、ガイドさんから「行きよりも帰りの方が、時間がかかるんだよ」と、言われて、少しきんちょうしました。

グループのみんなにも話して「けがをしなないように歩こうね」と伝えました。途中、列がバラバラになったこともあったけど、そのたびに私は、みんなに声をかけました。

後半は、荷物も足も重たくて、あきらめそうになったけど、みんなで「もうすこしだから、がんばろう」と、声をかけ合って、歩きました。帰りのバスで、グループのみんなから「大変な時に、はげましてもらってうれしかった」。

「好き勝手な行動の時でもやさしく注意してくれて良かった」と、言われました。



素直にうれしい気持ちと、私の方こそみんなからたくさんはげましてもらって、支えてもらって班長の係ができたんだよ。と、思ったので、「こちらこそありがとう」とたくさん伝えました。

今回の尾瀬自然学習で学んだことは、尾瀬の大自然と「きずな」の意味が理解できたことです。

仲間のがんばりをたたえることや感謝の気持ちを言葉に出して伝えると、とてもうれしくて、みんなで、にこにこになれることも分かりました。

これからも、大変で苦しいことがあっても「きずな」学年のみんなと支えあって、お互いを認めながら、小学生生活を送りたいです。



# 発表会



# 何でも出来る最高の友達



広神東小学校 六年

こぬま みお  
小沼 未央

私は今年から、夢ひかりという劇団に通い始めました。夢ひかりでは、普段はミュージカルをやっていますが、お祭りなどのイベントの時に、ダンスやラップを披露したりもしています。夢ひかりで出来た私の友達はみんな元気いっぱい、朝、練習場所に行くと、「未央ちゃんおはよう！」と、すごい元気に挨拶をしてくれたり、ダンスの振り付けがうまく出来ないときに、コツを教えてくださいしてくれます。だから、私は、元気で明るくって優しく、ダンスも演技も上手な私の友達が大好きです。いつか私も、あんなふうになれたらなとも思っています。



そんな楽しい夢ひかりでは今、秋のミュージカルに向けて、大練習会中です。練習の時は、時々、二人ずつくらいのグループをいくつか作って、一グループずつ、二人で台本通りの演技をしていくというものがあります。私はそれで、一番の友達と一緒にグループになりました。やる順番は自由で、やりたくなった時に、自分から勝手に出て来てやって下さい方式だったので、私は、セリフを忘れる前に、最初のほうにやっちゃおうと思っていました。

それで友達のこと「最初の方にやろう」と言って誘いました。でも友達には「緊張するし、後のほうがいいな」と言われて、私は、（まあそれもそっか。うん、そうだな。そうしよ！いいじゃんか！うん！後のほうにやろ。）というわけで後にすることになりました。



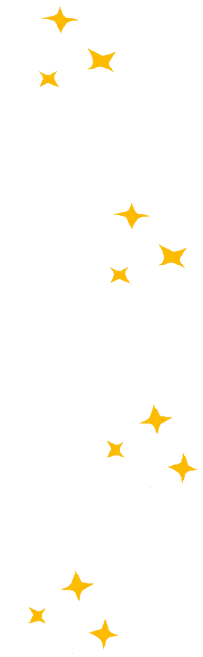
他のグループが終わって、もうお昼も近くそろそろ最後らへんというところで、私と友達がやっとやれる気がして前に出ました。

緊張感あふれる、真剣な空気の静かな広い部屋の真ん中で、小学生二人だけで演技するのは、とても怖かったです。

一つ前のグループが演技を終えて、さっきまであんなに大きな拍手が上がっていたのに、私達のグループが出て来た瞬間、空気ががらりと変わって、しーんとして、私は過去一緊張していました。

それから私たちは、華麗に演技を進め、(いいぞいいぞ！大丈夫！このままいけえ！)と、いい感じでした。

私は、自分の役になりきり、思いつきり、楽しく演技ができていました。でも、友達はずっとすごかったです。



まるで役に溶け込み、衣装もセットもまだなのにあるみたいで、だから私も、負けないくらい演技を頑張りました。

そして、(もう終わるー！もう少しー！)という所まできました。私と友達は、いきびったりな演技を続けていました。

そんな感じの最高の最終コーナーの所で、私が次のセリフを言おうと、息を吸った瞬間、急に頭の中が真っ白になって、セリフを忘れてしまいました。

私はものすごく焦りました。(私がセリフなんか忘れて、こんなところで黙りこんだりなんかしたら、このイイ感じの空気をぶち壊してしまう！それに、あんなに頑張ってくれた友達にも迷惑がかかる！どうすればいいの頼むからセリフを思い出してよ自分！)



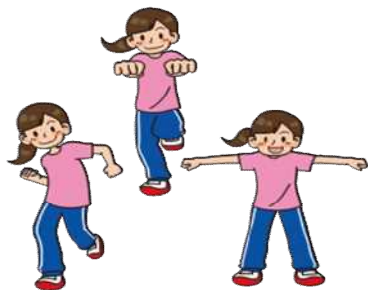


そう心には言い聞かせていたものの、本当はどうしたらいいのか本当にわからなくて、何もできませんでした。

すると、そんなピンチの私のことを、友達  
が助けてくれました。

忘れて言えなかったセリフのところを、演技でごまかしてくれたのです。その時の友達  
は、本当の演技者のように、キラキラと輝いて見えました。

私はその瞬間、心の中は、かっこいいと感謝の気持ちでいっぱいでした。そして最後、残りのセリフを言い切って、全てを終えると、大きな大きな拍手が聞こえました。  
あの時は本当にありがとう。講演頑張ろうね。



# 発表会



# 第19回ありがとうございます作文

## 応募作品数

学年	1年生の部	2年生の部	3年生の部	4年生の部	5年生の部	6年生の部	総数
応募作品数	85	106	210	202	124	131	858
優秀賞	1	1			1	1	4
入選賞	3	3	3	3	3	3	18

令和5年度は何年ぶりかの開催というようなイベントやお祭りなどが多々ありました。たくさんの思い出が作れたことと思います。

日々目まぐるしく変化する環境の中でも、自分たちができていることをしながら、周りの方々への感謝の気持ちも忘れずに過ごしていきたいものです。

今年度も市内の多くの小学生から応募がありました。受賞とはならなかった作品もどれも素直な「ありがとう」の気持ちが書かれていて、とても素晴らしい作品ばかりでした。

たくさんのご応募、ありがとうございました。(生涯学習課)



発行 令和6年2月17日  
魚沼市教育委員会事務局 生涯学習課  
TEL: 025 (793) 7480  
FAX: 025 (792) 1261  
E-mail: syogaigakusyu@city.uonuma.lg.jp